

## 彭叔守仙年譜稿(上)

今泉 淑夫

### はじめに

玉村竹二『五山禅僧伝記集成』に、その師自悦守憚の伝はあるが、彭叔守仙の伝はない。年譜本文冒頭に示したように、氏には彭叔について論考がある。ほぼ同時期に「周仙」として史料に名見える僧がいて、実は守仙の初期の名である。彭叔は、はじめ夢窓派の不琢という人に師事して、その人の命で東福寺の自悦に随侍して修学し、異なるふたつの法脈にまたがって所属し、随分後になってから夢窓派から東福寺派に正式に転派するという、変則的な軌跡をたどった。玉村論考はそのことを指摘している。

東福寺善慧院に、自筆の語録詩文集『猶如昨夢集』三冊、『鉄酸餡』三冊が現存している。ほかに、もとは大部であったと思われる『雑貨舖』『東語西話』の一部が遺っている。諸師法語、經典典籍等を抜粋したものである。各機関に所蔵される典籍にも彭叔の加筆、加点の跡を見るこゝとが少なくない。これらの抄書、作品、筆跡の中から、年月日のわかるものによって年譜を作成する。

彭叔には、一時代前の学僧桃源瑞仙に敬意を払った形迹がある。桃源が示寂した年の翌年に生まれた。桃源は、応仁の乱を避けて郷里に近い近江永源寺山上にほぼ十五年退居して、『史記抄』『百衲襖』を著わした。

彭叔もまた事歴が語るように、卓越した勉勵の人であった。同時に、東福寺に二十四住までしたことが示すように、戦乱の時代にあつて本寺の維持経営を期待された人でもある。各地に複雑な政治的狀況が展開した永正―天文期に、生涯の軌跡をおおよそ線状にたどれる人として、十六世紀禅林における「学」と「修道」の問題をたどるよすがである。京都および地方との法脈をこえる人脈による交渉を知る手がかりも多い。彭叔は、東福寺派と関わりの深い能登に三度下向している。守護畠山氏、家臣温井氏その他の武家、また七尾城に近い定林寺との交渉は密であり、一向一揆の勢力基盤である北陸において東福寺派の教線を確保するのに、彭叔の果たした役割は注目すべきものがある。

これらのすべてをふくめて、雑多な史料を年譜の形式に配列して、断片的な記事の間に脈絡がみえてくる。生涯の全体のうねりと部分としての浮沈は、彭叔ひとりの軌跡にとどまらず、時代の動きを語るものでもある。時々の事跡について展開すべき問題は少なくないが、とりあえず、年月日に係けて事柄を要約し、典拠史料と参考文献の所在を示す。

彭叔は、天文二十四年(一五五五、弘治元年、十月二十三日改元)十月十二日、享年六十六で示寂し、善慧軒に塔した。紙幅の都合で、今回は天文十八年条までを掲載し、残りの晩年六年分は次の機会に譲る。年譜本文の末尾に典拠、参考文献として略称で示したのは、年譜本文

に記したものを別にして、主に次の諸書である。

- 〔猶〕(上・中・下) Ⅱ 『猶如昨夢集』(上・中・下) (東福寺善慧院所蔵自筆本)  
(東京大学史料編纂所蔵謄写本)
- 〔鉄〕(上・中・下) Ⅱ 『鉄酸餡』(上・中・下) (東福寺善慧院所蔵自筆本)  
(東京大学史料編纂所蔵謄写本)
- 〔集書目録〕 Ⅱ 『東京帝国大学付属図書館所蔵善慧軒集書目録』(未定稿)  
(明治四十四年十月) (東京大学史料編纂所所蔵)
- 〔彭叔和尚法語〕 Ⅱ 『彭叔和尚法語』(東福寺善慧院蔵写本) (東京大学史料編纂所所蔵写本)
- 〔下火拈香〕 Ⅱ 『彭叔和尚語録 下火拈香』(東京大学史料編纂所所蔵古写本)
- 〔東語〕 Ⅱ 『東語西話』(東福寺善慧院蔵) (東京大学史料編纂所所蔵写真帳)
- 〔雜〕 Ⅱ 『雜貨鋪』(東福寺善慧院蔵) (東京大学史料編纂所所蔵写真帳)
- 〔東福寺誌〕 Ⅱ 『東福寺誌』(白石虎月編、東福寺、昭和五年初版、昭和五十四年六月復刻、思文閣出版)
- 〔鹿苑院公文帳〕 Ⅱ 『鹿苑院公文帳』(相国寺慈照院蔵本、『史料纂集鹿苑院公文帳』続群書類従完成会、平成八年十二月)
- 〔羽咋市史 中世・社寺編〕 Ⅱ 『羽咋市史 中世・社寺編』(羽咋市史編さん委員会編、昭和五十年三月)
- 〔中島町史〕 Ⅱ 『中島町史 通史編』(中島町史編纂専門委員会編、平成八年三月)

延徳二年(一四九〇) 庚戌、一歳。

コノ年、京都ニ於イテ、室町幕府奉行人諏方氏ニ生ル。「其本貫也、地在洛陽、其族譜也、廟曰諏方」〔鉄〕(上)、「山僧、延徳庚戌生帝城中」(彭叔和尚法語)ノ記事アリ。「玉村竹二」室町時代後期の学僧彭叔守仙伝に就ての新説「日本禅宗史論集」下之二

明応七年(一四九八) 戊午、九歳。

七月、相国寺雲頂院意足軒不琢ノ侍童トナル、マタ十二月、不琢ノ命ニ依リ東福寺ニ掛搭シテ栗棘門派自悦守懺ニ師事ス、以後、大永二年十二月ニ至ルマデ、本籍ヲ夢窓派ニ所属シテ、東福寺ニ掛搭スル変則持續ス。「先意足軒不琢師翁者、三宅氏之葭苳、而正覚国師之雲耳也、予九歳、侍師翁、露舐犢之恩者惟深矣、其冬、俾予隸名於惠日桂籍焉」〔猶〕(上)、「九歳、到他禅房、始為僧童、当夷則之下澣、入此伽藍、已隸名籍、過大呂之季冬」(彭叔和尚法語)ノ記事アリ。〔猶〕(上)

〔彭叔和尚法語〕「玉村彭叔論考」

明応十年(一五〇一) (文亀元年、二月二十九日改元) 辛酉、十二歳。

コノ年、「梅花残照」ト題シテ詩ヲ詠ズ、汝南恵徹ノ点アリ。〔猶〕(上) 文亀四年(一五〇四) (永正元年、二月三十日改元) 甲子、十五歳。

コノ年、東福寺不二庵ニ於イテ薙髮受具ス。〔彭叔和尚法語〕 永正三年(一五〇六) 丙寅、十七歳。

冬節上堂ニ際シ、自悦ノ会下ニ禪客ヲ勤ム。「周仙」ノ名初出。「東福寺文書」(第二十、一五五・一五六・一五七)「玉村彭叔論考」

永正四年(一五〇七) 丁卯、十八歳。

正月十八日、作成令偉示寂ス、自悦ノ追悼偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。

〔鉄〕(下)

七月二日、コレヨリ先、五月二十七日、汝南慧徹示寂ス、自悦ノ追悼偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)

九月三日、友社ノ会ニ於テ「菊徑晚歩」ノ作アリ。〔猶〕(上)

永正五年(一五〇八) 戊辰、十九歳。

永正六年(一五〇九) 己巳、二十歳。

五月二十五日、常楽庵ニ於テ「古寺話旧」ノ作アリ、桂林徳昌、景徐周麟、同座ス。「猶」(上)

六月、「賀荷長老出世」ノ作アリ。「猶」(下)

七月十七日、コノ日ヨリ八月二十八日マデ、芳卿光隣ニ「三体詩」講義ヲ受ク。「猶」(中)

コノ年、乗弘ヲ勤ム。「初丁廿歳握亀毛弘則詩論八教五時」(「鉄」上)、

「二十、乗弘提綱、八横七縦」(「彭叔和尚法語」)ノ記事アリ。

永正七年(一五一〇) 庚午、二十一歳。

正月ヨリ二月ニカケテ、不二庵ニ於テ「林間録」上下巻ニ墨点ヲ付ス、

識語ニ「仙二十一歳」ト見ユ、マタ「周仙」ノ印記アリ。「石門洪覚

範林間録」(二冊、国立国会図書館蔵)

七月七日、「星夕呈精甫少年」ノ作アリ。「猶」(下)

七月、延才徳能ノタメニ、住石州安国寺山門疏ヲ製ス。「猶」(下)「鹿苑院公文帳」

九月十四日、東福寺栗棘庵怡雲軒ニ於テ桃源瑞仙手沢ノ「松斎梅譜」

ヲ書写ス。「東語」(十二)

九月二十八日、三条西実隆ノ子桂陽、得度ス、自悦守懔、ソノ戒師ヲ

勤ム。「実隆公記」

十一月十九日、怡雲軒ニ於テ「感山雲臥紀談」(仲温暁瑩著)二冊ニ

加點ス、該本ハモト安聖院(鹿苑院前身)、聖寿寺旧蔵本ナリ。「玉村

竹二」(大東急記念文庫本)五山版「感山雲臥紀談」の伝承について

「日本禅宗史論集 下之二」

十二月二十一日、桃源瑞仙手沢ノ「後村集」(宋、劉克莊撰)五十巻

ヲ抄写ス。「東語」(九)

永正八年(一五一二) 辛未、二十二歳。

正月一日、「鷄旦寄月虎丈人」ノ作アリ。「猶」(下)

四月十一日、五山版「仏鑑禪師語録」三冊ニ雲岫守端本ヲ以テ朱点ヲ加フ、巻末ニ「永正第八辛未四月十一日、以雲岫西堂之本写朱句畢、仙廿二載」ノ識語アリ、コノ本後年ニ至ルマデ書入セラル。(↓天文

十二年八月二十九日条)「石井積翠軒文庫善本書目」

五月十五日、先師不琢、撰津意足軒ニ於テ示寂ス、爾来彭叔、意足軒

主ヲ称シ、友人保叔首座ニ仮扱シテ軒ノ寺産ヲ管理シ、周悦侍童ヲソ

ノ継嗣トセムトス。(↓天文十三年五月十五日条)「猶」(上)

永正九年(一五二二) 壬申、二十三歳。

四月、前真如光甫西堂ノタメニ、住田覚山門疏ヲ製ス。「猶」(下)

閏四月六日、自悦守懔、「碧岩録」ヲ講ス、之ニ陪席ス。(↓永正十二

年条)「碧岩口義」(「集書目録」)

閏四月十七日、不二庵怡雲軒ニ於テ「雪樵独唱集」ヲ書写ス。「新修

成實堂文庫善本書目」(「五山文学新集」(第五巻)

コノ年、七月ヨリ十一月マデ、東福寺ニ於テ維那職ヲ勤ム。コノ頃、

先師不琢ノ俗弟ノ主スル撰津澄心寺蔵春軒ヨリ舜年少上洛シテ彭叔ノ

許ニアリ、コノ後某年十月五日、舜年少剃髮受戒ス、之ヲ賀シテ偈ヲ

製ス。「猶」(上)

永正十年(一五二三) 癸酉、二十四歳。

三月、元版「如居士語録」(宋、顔公撰)三冊ニ朱点ヲ加フ、後二

宝永二年(一七〇五)、守真之ヲ修補ス。「集書目録」

九月七日、自悦守懔ノ「大施餓鬼抄」講義ニ陪席ス。「大施餓鬼抄」

(東福寺靈雲院蔵)

十二月十六日、芳卿光隣ノ「江湖風月集」講義ヲ聴聞シ、コノ日、ソ

ノ二巻二冊百五十丁ノ書抄ヲ了ス。「龍門文庫善本書目」

永正十一年(一五二四)甲戌、二十五歳。

正月一日、「元旦寄梅溪美少」ノ作アリ。「猶」(下)

四月、コレ以後大永三年(一五二三)六月マデ『黄山谷詩集』二十帙ノ書抄ヲ続ク。(↓大永三年条)「猶」(中、跋所鈔黄山谷詩集)

五月八日、自悦守懔、一桂祖芳ノタメニ『日用清規』ヲ講ジ、之二陪

席ス。(↓永正十五年九月二十七日条)『日用軌範鈔』(東福寺靈雲院藏)

永正十二年(一五二五)乙亥、二十六歳。

正月一日、「歳旦寄月汀丈人」ノ作アリ。「猶」(下)

正月二十五日、自悦ノ陳祖田三年忌偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。(↓大

永三年条)「鉄」(下)

二月、白圭信玄ノタメニ、住東福寺山門疏ヲ製ス。「猶」(下)「鹿苑院公文帳」

三月二十七日、自悦、芳卿ノタメニ、「円覚了義撮意」ヲ講ズ、之二陪席シ、コノ日書抄ヲ了ス。「集書目録」

五月、湖月信鏡、伯英棠ノタメニ、「三体詩」ヲ講ズ。(↓天文十一年

五月条)「猶」(中)

十一月二十三日、永正九年閏四月以来、自悦、建仁寺春和啓聞ノタメ

ニ、「碧岩録」ヲ講ジテ、五十八講ニ及ブ、之二陪席シ、コノ日、ソ

ノ十卷四冊ノ書抄ヲ了ス。「集書目録」「猶」(中)

コノ年、能登守護畠山義元卒ス。「大日本史料」(第九編之六)

永正十三年(一五二六)丙子、二十七歳。

五月二十六日、常楽庵ニ於テ湖月信鏡ニ「四教義」ノ講義ヲ受ケ、

『四教義考』ヲ抄シ始ム、コノ講義中断セラレ、後年、諸家ノ判釈ヲ

涉獵シテ之ヲ補フ。(↓大永五年条)「集書目録」

五月、湖月ノ「三体詩」講義ニ陪席ス。「猶」(中)

七月一日、コノ日ヨリ二十日マデ、自悦守懔ニ「孟蘭盆經」ノ講義ヲ

受ク。「烏藍婆拏」(乾坤、東福寺靈雲院藏)

七月十二日、東福寺善恵軒ニ於テ「孟蘭盆經」上巻ノ書抄ヲ了ス。

「同」

八月三日、コノ日「孟蘭盆經」下巻ノ書抄ヲ了シ、自悦ノ証判ヲ需ム。

自悦識語ニ「丁此夏末、彭叔仙公謂余曰、請圭山疏靈芝記所釈之盆經、

究而精微也、為講一遍、余許之、前後八講会了、後三日、仙袖一巨

編而來、披而誦之、上余口談於紙、為兩卷焉、其意句也、其義理也、

如綿々密々而分緒也、(略)永正丙子仲夏初三日、不二道人自悦守懔七

十三載(花押)ト見ユ。マタ彭叔與書ニ「不二自悦老師大和尚、自今

茲秋七月朔至同二十日、為予辱講演盆經者八会也、予、明鈔纂經疏記

之三、纔為一百十二紙、或以梵語、或以漢語、或以博桑仮名、只恐錯

師之講意、後一日、袖之入室、而奉供師之笑覽、則為削字改義、留之

六七日、于茲遂跋其後卷、以還予、何以擬師之法恩耶、(略)松山瓢閣

道人仙也廿七稔(花押)トアリ。「同」

コノ年、湖月信鏡ヨリ「三体詩」ノ講義ヲ受ク。「蓋予之於斯集、齒

僅丁二十、需講說乎芳卿翁、略了其義也、後逮二十有七、又侍湖月老

人之講筵、一絶無缺焉」ノ記事アリ。(↓天文八年七月四日条)「猶」

(中)

永正十四年(一五二七)丁丑、二十八歳。

五月十四日、夢添派慶岩等雲ヨリ「達磨相承一心戒私記」ヲ相伝ス、

コノ年蔵主位ニアリ。識語ニ「以此本授周仙蔵主畢」ト見ユ。(↓大

永二年条)「受戒略儀」(東福寺靈雲院藏)

七月一日、自悦守懔、東福寺一華庵ニ於テ「首楞嚴經」ヲ講ズ、コノ

日、ソノ第一、第一講始マル、之ヲ書抄ス。「楞伽抄」(相國寺慈照院藏、六

冊) 七月五日、同第二講アリ。「同」

七月九日、同第三講義アリ。〔同〕  
七月十九日、同第四講アリ。〔同〕  
七月二十一日、善惠軒ニ於テ「楞伽抄」第一之一、書抄了ス。〔同〕  
七月二十四日、同第五講アリ。〔同〕  
七月二十九日、同第六講アリ。〔同〕  
八月五日、湖月信鏡、東福寺ニ入寺ス、小參問禪ヲ勤ム。〔同〕〔鉄〕  
〔中〕  
八月八日、「首楞嚴經」第一、第七講アリ。〔同〕  
八月十二日、同第八講アリ。〔同〕  
八月十五日、善惠軒ニ於テ「楞伽抄」第一ノ書抄了ス、コノ日、先師不琢ノ月忌辰ニ当ル、ソノ功德アラムコトヲ念ズ。〔同〕  
八月十八日、「首楞嚴經」第二、第一講アリ。〔同〕  
八月二十四日、同第二講アリ、コノ夜善慧室中ニ於テ抄了ス、三聖寺ト栗棘庵ノ鐘声相答フニ聴キ入ル。〔同〕  
八月二十九日、同第三講アリ、半夜善慧室中ニ於テ抄了ス。〔同〕  
九月五日、同第四講アリ。〔同〕  
九月十一日、同第五講アリ。〔同〕  
九月十六日、同第六講アリ、善慧室中ニ於テ同第二抄了ス。〔同〕  
九月二十一日、「首楞嚴經」第三、第一講アリ。〔同〕  
九月二十七日、同第二講アリ。〔同〕  
十月三日、同第三講アリ。〔同〕  
十月十日、同第四講アリ。〔同〕  
十月十一日、同第三之二終ル、半夜善慧室中ニ於テ清書了ス、傍ラニ庚子アリ。〔同〕  
十月十八日、「首楞嚴經」第四、第一講アリ。〔同〕  
十月二十六日、同第二講アリ。〔同〕

閏十月三日、同第三講アリ。〔同〕  
十一月二十二日、同第四講アリ。〔同〕  
十一月晦日、同第五講アリ。〔同〕  
コノ年、「五灯会元」「人天宝鑑」等ニ加點ス。〔五灯会元〕（大東急記念文庫蔵、二十冊）〔人天宝鑑〕（京都大学谷村文庫蔵、四冊）  
十二月四日、建仁寺常庵龍崇本ヲ以テ「山谷詩集注」ノ首部ヲ補ス。  
〔帝国図書館抄本採訪録〕  
永正十五年（一五一八）戊寅、二十九歳。  
二月五日、「首楞嚴經」第四、第六講アリ。〔楞伽抄〕  
二月二十日、同第七講アリ、コノ日、同第四終了ス。〔同〕  
二月二十一日、前日ノ講義故アリテ欠席ス、自悦、タメニ再ビ講ヲナシテ之ヲ補フ。栗棘庵東白軒ニ於テ第四ノ書抄了ス、奥書ニ「此末之一会有所以缺焉、故不二師為講一遍以補其闕、吁、厚恩何以酬之也哉、永正十五戊寅二月廿一日、於栗之東白軒下書了、仙也廿九稔」ト見ユ。〔同〕  
二月二十八日、「首楞嚴經」第五、第二講アリ。〔同〕  
三月五日、同第三講アリ。〔同〕  
コノ日、竺峰惠心示寂ス、自悦ノ追悼偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。〔鉄〕  
〔下〕  
五月九日、東福寺維那寮ニ於テ「応安和尚語録」ヲ抄出ス。署名「瓢庵」。〔雑〕（一）  
八月二十七日、善惠軒ニ於テ誠甫淳ノ唐本ヲ以テ「新編剪灯余話」自卷一至卷四ヲ抄出ス。署名「瓢庵仙也廿九歳」。〔雑〕（二）  
九月二十七日、コレヨリ先、運仲慧壽ノタメニ「日用清規」ヲ講ズ、コノ日、第三講ヲ了ス。署名「善惠境界周仙廿九歳志」。〔永正十一年五月八日条〕〔日用規範抄〕（東福寺靈雲院蔵）

永正十六年(一五一九)己卯、三十歳。

二月十八日、自悦ノ「首楞嚴經」第五之二、第四講アリ。〔楞伽抄〕

二月二十三日、同第五講アリ。〔同〕

三月一日、「首楞嚴經」第六、第一講アリ。〔同〕

三月八日、同第二講アリ。〔同〕

三月十六日、同第三講アリ。〔同〕

三月二十五日、同第四講アリ。〔同〕

四月二十二日、同第五講アリ。〔同〕

四月二十六日、同第六講アリ。〔同〕

五月三日、同第七講アリ。〔同〕

五月十一日、「首楞嚴經」第七、第一講アリ。〔同〕

五月十七日、同第二講アリ。〔同〕

五月二十四日、同第三講アリ。〔同〕

六月三日、同第四講アリ、コノ後、同経第七、八、九、十マデ終了ス、但シ識語等ナシ、月日詳ラカナラズ。〔同〕後年、寛永二十年(一六四三)、阿波国名東郡ノ僧守春(二十五歳)、コノ抄ノ写本ヲ北野長遠寺ニ得テ、五月二十一日ヨリ十月二十六日ニカケテ、東福寺善慧軒ニ於テ書写ス。(↓天文十九年五月条)〔首楞嚴抄〕(東福寺靈雲院藏、五册)

八月二十日、栗棘庵東白軒ニ於テ『大方広莊花嚴經』ヲ抄出ス。署名

「第三住当庵仙也三十歳」。〔雜〕(一)

九月六日、東白軒ニ於テ『仏祖統紀』ヲ抄出ス。〔雜〕(一)

九月十二日、東白軒ニ於テ『陸放翁詩集』ヲ抄出ス。〔雜〕(一)

コノ年、前任円覚一韓ノタメニ、住南禅(坐公文)山門疏ヲ製ス。〔猶〕

(下)〔南禅寺住持籍〕

永正十七年(一五二〇)庚辰、三十一歳。

五月二十七日、要津東梁ノ汝南十三年忌追悼偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。

〔鉄〕(下)

七月七日、「星夕呈烏有先生」ノ作アリ。〔猶〕(下)

八月六日、要津東梁示寂ス。〔東福寺誌〕〔五山歴代〕

十二月一日、自悦守懺示寂ス。〔大日本史料〕(第九編之十二)

永正十八年(一五二二)(大永元年、八月二十三日改元)辛巳、三十二歳。

二月二十三日、老岐海印寺(諸山)ノ公帖ヲ受ク。〔東福寺文書(公帖類)〕〔鹿苑院公文帳〕

二月二十六日、山城真如寺(十刹)ノ公帖ヲ受ク、月舟寿桂、江湖疏ヲ製ス。〔東福寺文書(公帖類)〕〔鹿苑院公文帳〕〔疏藁〕(四)〔国立国会図書館蔵〕

コノ海印寺、真如寺公帖ハ坐公文ニシテ實際ニハ入寺セズ、自悦ノ法嗣トナリ聖一派栗棘門派ノ人トナリシハ、大永二年(一五二二)ノコトナランカ。〔廿二歳、忝賜海印新除、堪起潘岳感、白雪侵羈客鬢、重下真如鈞帖、(略)容於此時、山中宿納、使山僧漱惠山泉之末流、以故、不能峻拒、遂舐犢、嗣自悦老凍膿、謂之遇縁即宗乎〕(彭叔和尚法語)天文七年五月二十一日東福寺入寺法語)ノ記事アルハ、後年ノ事ヲ併セテ述ベシモノナルベシ。(↓大永二年条)

六月、運仲慧籌西堂ノタメニ、住真如諸山疏ヲ製ス。〔猶〕(下)

八月四日、善慧軒ニ於テ『獅子林菩提正宗寺記』ヲ抄出ス。〔雜〕(一)

八月十三日、コノ日ヨリ十月六日マデ、東福寺大仙庵運仲西堂ノタメニ、善慧軒ニ於テ『江湖風月集』ヲ講ス。〔龍門文庫善本書目〕

八月、自悦ノ秘本ヲ以テ『碧岩集私鈔』ヲ補シ、十帙トナス。〔猶〕

(中)

九月晦日、善慧軒ニ於テ、『白雲詩集』ヲ抄出ス。〔雜〕(一)

十月二日、他筆ヲ借りテ、『文獻通考』ヲ書写ス。〔東語〕(十三)

十二月二十九日、善慧軒ニ於テ、唐本『碧岩想中和尚語録』一冊ヲ書

写ス。署名「瓢庵仙子三十二齡」。「集書目録」

十二月、梅叟西堂ノタメニ、住建長山門疏ヲ製ス。「猶」(下)

大永二年(一五二二) 壬午、三十三歳。

二月七日、善慧軒ニ於テ、『書史会要』ヲ書写ス。「雑」(二)

九月十五日、書簡「答太虚老人」アリ。「猶」(下)

九月晦日、『史氏注山谷外集詩』ヲ写ス。「雑」(二)

十一月二十六日、『碧岩集私抄』ニ跋ス。「猶」(中)

十二月、自悦守憚ノ塔ヲ拜シテ法ヲ嗣ギ、聖一派栗棘門派ノ人トナル。

東福寺ハ聖一派ノ度弟院ニシテ、他派ノ人ノ長ク止マルコトヲ許サズ、

一山中ノ老衲夢窓派ヨリノ転派ヲ勸ム。コノ頃、「周仙」ヲ「守仙」

ニ改名スルカ。「予遠稟繼嗣于龜嶺之支流、久隸名字乎惠嶠之桂籍、

是故、山中大老、門内高見、胥議曰、吾山開闢以降、弗許他派之居、

繇是、旧冬十二月、拜自悦師之塔、酬少日之恩乳」ノ記事アリ(「猶」

(下、大永三年正月十八日、太虚祥廓宛書簡)。(↓永正十八年条)「玉村彭叔論考」

コノ年、「惠日山東福禪寺淋汗幹縁疏并引」ヲ製ス。「猶」(下)

コノ年、宗山等貴ノ光甫追悼偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。「鉄」(下)

大永三年(一五二三) 癸未、三十四歳。

正月十八日、書簡「又呈太虚翁」アリ。「猶」(下)

五月八日、『山谷詩集注』第二十冊ヲ万里集九「帳中香」及ビ月舟寿

桂秘本ヲ以テ抄ス。「集書目録」(「猶」(中)

六月六日、「跋所鈔黃山谷詩集」アリ。(↓永正十一年四月条)「猶」

(中)

七月九日、書簡「呈太虚禪翁」アリ。「猶」(下)

十一月八日、「土睦首座冬節兼抄鈞語」アリ。「鉄」(中)

コノ年、陳員外郎友蘭周昭三年忌ノ偈ヲ製ス。コノ頃、陳員外郎ト能

登温井氏ノ交渉アリ。(↓永正十二年正月二十五日条)「鉄」(下)「実

隆公記」

大永四年(一五二四) 甲申、三十五歳。

四月三日、東福寺常樂庵ニ於テ『大方広仏華藏經合論』ヲ書写ス。

「東語」(四)

七月十五日、常樂庵ニ於テ『僧宝正統伝』二冊ヲ書写ス。「集書目録」

八月十六日、芳卿光隣ノタメニ、住東福山門疏ヲ製ス。「猶」(下)「鹿

苑院公文帳」

八月、コレヨリ先、日向龍興寺僧忠、常庵龍崇ニ字説ヲ与ヘラルト雖

モ焼失セリ、コノ秋上洛シテ、友人ヲ介シテ彭叔ニ改称ヲ需ム、依リ

テ「花翁字説」ヲ製シテ与フ。署名「惠日万年山常樂主人彭叔叟守仙

書焉」。「猶」(中)

大永五年(一五二五) 乙酉、三十六歳。

三月四日、梅岑庵僧雲岑普公藏主、ソノ師ノ百ヶ日忌辰ニアタリ、他

筆ヲ借りテ「円通懺儀」ヲ書写ス、コノ月跋文ヲ需メニ応ジテ、「跋

円通懺儀」アリ。「猶」(中)

四月二十日、南英禪茂首座ノタメニ、住妙心山門疏ヲ製ス。「猶」(下)

八月十二日、栗棘庵東白軒ニ於テ『義楚六帖』十二冊ヲ書写ス。「東

語」(五・六)

十月十二日、林某廿五歳、陳外郎家藏本『分門瑣碎録』自卷一至卷二

十ヲ抄写シ了ス、之ヲ手得ス。「東語」(二十七)

大永六年(一五二六) 丙戌、三十七歳。

正月、喜岳惠伊首座ノ住宝福同門疏ヲ製ス。「猶」(下)「鹿苑院公文帳」

七月十日、コレヨリ先、六月五日ヨリ伊勢カノ僧闇藏主ノタメニ『臨

濟録』ヲ講ズ、コノ日、第八講ヲ了シ、偈ヲ与フ。「鉄」(下)

七月二十日、鶴翁、ソノ先師前琉球円覚寺仙岩和尚三周忌齋ヲ城北聖

寿寺ニ営ム、因リテ偈ヲ製ス。「鉄」(下)

九月二日、上野長楽寺義海玄篤、ソノ先師輝伯慈暘ノ一周忌齋ヲ営ム、因リテ偈ヲ贈ル。〔鉄〕(下)

九月二十日、奥羽ノ人鎌田弥四郎源守政、コレヨリ先、彭叔ニ就キテ『貞永式目』ヲ読ム、ソノ帰国ニ及ビ偈ヲ賦シテ餞行トナス。〔猶〕(上)

大永七年(一五二七)丁亥、三十八歳。

二月、城北聖寿寺ヨリ善慧軒ニ帰ル、マタ臆テ普門寺ニ移ル。〔春二月、余解印帰善惠弊廬、又移普門靈場〕ノ記事アリ〔猶〕(上)。梅賢侍者ニ正月来賀返礼ノ啓札ヲ送ル。〔猶〕(下)

四月十三日、一清侍者所持ノ唐本『雪岩録』ヲ借リテ書写シ朱点ヲ加フ、〔跋雪岩録加朱句之後〕アリ。〔猶〕(中)〔東語〕(七)

五月十日、雲翼侍者所持ノ唐本『康節先生擊壤集』ヲ抄写ス。〔東語〕(七)

七月六日、雲岑普ノ手ヲ借リテ『兼弘問禪法語』ヲ書写シ朱点ヲ加フ。署名「善惠比丘瓢闍山人三十九齡」。〔雜〕(卷不詳)

七月二十六日、普門寺ニ於テ宋、釈普度撰『虚舟和尚語録』ニ朱点ヲ加フ。〔集書目録〕

七月、琉球国僧檀溪全叢、南禅寺公帖ヲ受ク、檀溪ノ需メニ応ジテ『檀溪字説』ヲ製ス。(↓天文六年八月条)〔猶〕(中)〔鹿苑院公文帳〕

コノ頃カ、琉球国僧惟天士、月泉智、月峯智泉、心甫田、古仙全養等ノタメニ道号ヲ与へ、偈ヲ製ス。〔鉄〕(上)

マタコノ頃、成恩寺友雲庵昌哲首座タメニ「明叔字説」、日向大慈寺久睦侍者ノタメニ「竹和字説」ヲ製ス。〔猶〕(中)

九月二日、義海玄篤ノタメニ、ソノ師輝伯肖像ノ賛ヲ製ス。〔鉄〕(上)

九月十日、普門寺藏本『大藏一覽』ヲ抄写ス。〔東語〕(上)

十一月二十一日、「惠秀首座冬節前板兼弘」法語アリ。〔鉄〕(中)

十二月五日、普門寺ニ於テ、『唐鑑』ヲ抄写ス。〔東語〕(上)

十二月十一日、普門寺ニ於テ、『空車山録』他ヲ抄写ス、マタ『高峯録』ニ朱点ヲ加フ。〔東語〕(下)〔集書目録〕

大永八年(一五二八)(享祿元年、八月二十日改元)戊子、三十九歳。二月晦日、普門寺ニ於テ、『方秋崖詩集』他ヲ抄写ス。〔東語〕(八)

三月三日、普門寺ニ於テ、『円悟禪師住崇寧万寿寺語録』ヲ抄写ス。〔東語〕(七)

三月六日、『瑞岩如心中和尚語録』ヲ抄写ス。〔東語〕(七)

四月一日、普門寺ニ於テ、『蒲室集』ヲ抄写ス。〔東語〕(七)

五月二十三日、普門寺ニ於テ、『石溪仙海禪師語録』ヲ抄写ス。〔東語〕(七)

五月二十八日、普門寺ニ於テ、熙春龍喜侍者所持ノ唐本『誠齋先生吟藁』ヲ抄写ス。〔東語〕(七)

五月、コレヨリ先、大永六年夏、備中宝福寺僧清叔上洛シテ東福寺天得庵ニ掛錫ス、城北聖寿寺ヲ訪レテ知己トナリ、以後往還虚日無シ、別離ヲ惜ミ禪詩ヲ贈ル。〔猶〕(上)

六月、書簡「呈某人借碧岩集」「答借碧岩之書」アリ。〔猶〕(下)

八月、和泉堺ノ徳安居士ノタメニ、「無分齋記」ヲ製ス。〔猶〕(中)

九月四日ヨリ閏九月一日ニカケテ、栗棘庵東白軒ニ於テ諸書閱覽抄写ス。〔東語〕(十一)

十月二十日、五山版『希叟和尚正宗贊』四冊ニ建仁寺月舟寿桂藏本ヲ以テ首書ヲ写シ朱墨点ヲ加フ。(↓天文十二年五月十三日条)〔集書目録〕

コノ年ヨリ享祿三年十一月ニ至ルマデ、『海瓊白先生文集』『普灯録』『皇元風雅集』『厚齋王先生困学記聞』『唐才子伝』『慈受深和尚語録』等ノ諸書ヲ通覽抄写シタル『瓢庵手抄』一冊アリ。(↓享祿三年条)

〔集書目録〕

享祿二年(一五二九)乙丑、四十歳。

二月十七日、善慧軒ニ於テ明版(洪武七年・一三七四刊)『禪林僧宝伝』四冊ノ第一冊ニ朱点ヲ加フ。〔集書目録〕

三月二日、同第三冊ニ朱点ヲ加フ。〔同〕

四月十七日、雲翼侍者ノタメニ陽岳座元ヲ悼ム偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)

七月二十日、善慧軒ニ於テ『石門文字禪』他ヲ抄写ス。〔東語〕(十五)

コレヨリ先大永八年夏、越中長興寺僧申甫藏主、上洛シテ龍吟庵ニ掛

錫ス、コノ年、求メニ応ジテ『春溪字偈』ヲ製シテ贈ル。〔鉄〕(上)

コレヨリ先大永七年、琉球国円覚寺僧守珍藏主、上洛シテ東福寺龍吟

庵ニ掛錫ス、コノ年、帰国ニ際シテ道号月溪ヲ与へ、偈ヲ製シテ贈ル。

〔鉄〕(上)

享祿三年(一五三〇)庚寅、四十一歳。

三月、白圭信玄示寂ス、綱宗揚ノ追悼偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。〔鉄〕

(下)

四月九日、性永尼ノタメニ、追悼偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)

六月四日ヨリ七月十七日マデ、栗棘庵ニ於テ『太平御覽』ヲ閲覽抄写

ス。〔東語〕(十六)

八月二十一日、コレヨリ先六七月ノ交ニ、景林首座ノタメニ水陸会ノ

コトヲ講ジテ第三講ニ及ブ、景林、ソノ私鈔ヲ書写セムコトヲ需ム、

〔施食私鈔跋〕アリ。〔猶〕(中)

十一月晦日、先大永八年ニ始メシ諸書抄録『瓢庵手抄』ノ内、『唐

才子伝』末尾ニ「享祿三庚寅仲冬晦日、於善惠室、于時江之軍兵乱入

寺中、当軒有甲賀衆、吁、瓢山人四十一歳」ノ識語アリ。(↓大永八

年条)〔集書目録〕

コノ年八月、細川高国、浦上宗村、撰津ニ入り、十一月、両細川軍市

中ニ戦フ、十二月十一日、近江合力衆三雲帰国シ、柳本賢治ノ余党東

福寺辺在家ヲ放火打破シ、寺中僧坊ニ乱入ス、タメニ海蔵院、遣迎院

焼失ス、寺中ノ住僧七百余員分散シ、什宝散失ス、彭叔マタ山科ニ逃

レ、更ニ「東村客舎」ニ移リテ寓ス。〔鉄〕(下)〔二水記〕〔東福寺誌〕

コノ年ヨリ天文六年ニカケテ、安芸定惠寺景披惠郎、薩摩僧乾仲宗貞、

加賀建聖寺惟宗瑞派、安芸西禅寺東嶺昇、安芸僧大成源偉、檀叔源林、

備後興法寺東雲瑞毛、浩心徳養尼、伊賀長慶寺鶴翁至隠、伊賀安養寺

雲峰守棟、伊賀少林寺瑞竹至浄、玉林寺春湖宗鑑等ニ番号ヲ与フ、ソ

ノ年月不詳ナルモ且クコノ年条ニ掲グ。〔鉄〕(上)

享祿四年(一五三一)辛卯、四十二歳。

二月、宗述老人ノタメニ、「飲牛齋記」ヲ製ス。〔猶〕(中)

五月二十三日、綱宗宗揚、伊勢ニ於テ示寂ス、追悼偈ヲ製ス。〔鉄〕

(下)〔東福寺誌〕

七月八日、九条尚経一周忌齋アリ、茂彦善叢ノ追悼偈ヲ和シテ一偈ヲ

製ス。〔鉄〕(下)

九月十八日、コノ前後、栗棘庵東白軒、常楽庵等ニ於テ諸書ヲ閲覽シ

タル抄『骨董稿』一冊アリ。(↓天文十四年七月条)〔石井積翠軒文庫

善本書目〕

十月六日、徳馨禅定尼三十三回忌ニ際シ、一偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)

享祿五年(一五三二)(天文元年、七月二十九日改元)壬辰、四十三歳。

四月二十一日、『后甲集』等ヲ抄写ス。〔東語〕(二十一)

七月、喜岳惠尹西堂ノタメニ、住建長同門疏ヲ製ス。〔猶〕(下)〔鹿苑

院公文帳〕

十一月七日、コノ日ヨリ翌二年五月マデ、桂昌庵桂梁首座ノタメニ、

〔江湖風月集〕ヲ講ズ。(↓天文二年条)〔鉄〕(下)

天文二年(一五三三)癸巳、四十四歳。

三月二十二日、父心泉宗月逝去ス、掩土偈アリ。(↓天文六年三月二十二日条)「下火拈香」〔集書目録〕

四月二十六日、栗棘庵東白軒ニ於テ吉甫興旧藏本『元松卿先生文集』ヲ抄写ス。〔東語〕(十九)

五月四日、善慧軒ニ於テ唐本『独木禾上語録』ヲ抄写ス。〔東語〕(十九)

五月二十八日、前年十一月ヨリ桂昌庵桂梁首座ノタメニ『江湖風月集』ヲ講ジテ第十五講ニ及ビ、コノ日終了ス、一偈ヲ賦シテ贈ル。(↓天文元年条)〔鉄〕(下)「江湖風月集抄」(龍門文庫善本書目)

六月五日、能登畠山義繁卒ス、法名大用院殿心月徳安。〔羽昨市史中世・社寺編〕

六月十四日、吉甫興旧藏ノ『率庵語録』ヲ抄写ス。〔東語〕(十九)

六月十七日、善慧軒ニ於テ『筠溪牧潜集』ヲ抄写ス。〔東語〕(十九)

八月二十三日、善慧軒ニ於テ梅湖桂林藏本『石門文字禪』ヲ抄写ス。〔集書目録〕

八月二十四日、徳大寺実淳薨ス、法名禪光院殿月仙忍継、享年八十九。掩土法語ヲ製ス、聖寿寺ニ於テ誦経、次テ岩栖院剃庵老人ノ追悼偈ヲ和シテ偈ヲ製ス。(↓天文八年二月二十四日条)「下火拈香」〔鉄〕(下)

〔今泉』桃源瑞仙年譜』〔今泉』易の罰を受けること』安田元久先生退任記念論集『中世日本の諸相』下所収)

十二月一日、善慧軒ニ於テ五山版『断橋語録』二冊ニ朱点ヲ加フ。〔集書目録〕

十二月八日、建仁寺一華軒月舟寿桂示寂ス、ソノ追悼偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)〔今泉』桃源瑞仙年譜』

天文三年(一五三四)甲午、四十五歳。  
閏正月、コレヨリ先、享祿五年、安芸西禪寺文岫源梁、上洛シテ東福

寺桂昌庵ニ掛錫シ、天文二年冬、万寿寺ニ於テ乗弘ヲ遂グ、コノ月帰郷ニ際シ、梅湖桂林ト共ニ送行詩ヲ製シテ餞トス。(↓天文十三年十一月条)〔猶』(上)〔鉄』(上)

閏正月、清叔首座ノタメニ、住井山宝福山門疏ヲ製ス。〔猶』(下)

六月十一日、瑞雲令従示寂ス、茂彦善叢ノ偈ヲ次韻ス。〔鉄』(下)

八月二十四日、徳大寺実淳一周忌ニ際シ、太虚祥廓ノ偈ヲ次韻シテ偈ヲ製ス。〔鉄』(下)

八月、東福寺ニ於テ、双峯宗源ニ百年忌齋会ヲ営ム、正当忌八十一月ナルモコノ月預修ス、偈ヲ製ス。〔鉄』(下)

九月十四日、コノ日ヨリ二十一日マデ、建仁寺僧ノ持来ル『靈竺淨慈自得禪師録』六卷一冊ヲ書写シ了ス。〔集書目録〕

十月二十日、藏光庵藏本『勸善書』ヲ抄写ス。〔東語』(二十三)

十二月十三日、梅湖桂林ノタメニ『日用清規』ヲ講ス、コノ日、第二講ヲ了ス。(↓永正十五年九月二十七日条)『日用軌範鈔』(東福寺靈雲院藏)

天文四年(一五三五)乙未、四十六歳。  
三月、東英ノタメニ住濃州瑞龍山門疏ヲ製ス。〔猶』(下)

四月二十八日、太虚祥廓示寂ス、芳卿光隣ノ偈ヲ次韻シテ偈ヲ製ス。〔鉄』(下)

八月十二日、相国寺万松軒ヨリ唐本『万松老人評唱天童覚和尚拈古請益録』二冊ヲ借り、之ヲ書写シ朱点ヲ加フ。〔集書目録〕

八月二十四日、徳大寺実淳ノ三年忌ニ際シ、筠溪元貞ノ偈ヲ次韻シテ、偈ヲ製ス。〔鉄』(下)

八月、深草歌会ニ於テ竹千代二代リ「文詞」ノ作アリ。〔猶』(上)

〔鉄〕(下)〔東福寺誌〕

九月五日、建仁寺護国院常庵龍崇示寂ス、希三宗璨ノ偈ヲ次韻シテ、追悼偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)〔建仁寺住持位次簿〕

十二月一日、自悦守懌ノ十七年忌ヲ営ミ、追悼偈ヲ製ス。(↓永正十七年十二月一日条)〔鉄〕(下)

十二月六日、コレヨリ先、洛中驩屑ノ後、或人ヨリ『大明一統志』六冊ヲ百文ニテ購入ス、コノ日、善慧軒ニ於テ一覽シ抄写ス。〔東語〕(十九)

天文六年(一五三七)丁酉、四十八歳。

正月二十四日、一漚軒宗鑑所藏ノ唐本『玉海』ヲ抄写ス。〔東語〕(三十五)

二月十日、宗鑑所藏ノ『万張谷』ヲ抄写ス。〔東語〕(二十五)

二月十一日、細川氏被官茨木伊賀守長隆、コノ春、聖願寺ニ石塔ニ基ヲ建立シ、コノ日、尽七日忌ヲ預修ス、因リテソノ偈ヲ製ス。(↓天文六年十一月条)〔鉄〕(下)

三月三日、五山版『東山語録』(宋、釈慧空撰)一冊、五山版『虎丘隆和尚語録』(宋、釈紹隆撰)一冊ニ朱点ヲ加フ。〔集書目録〕

マタコノ日ニ朱点ヲ加フ。〔集書目録〕

三月二十二日、善慧軒ニ於テ、五山版『応庵和尚語録』(宋、釈曇華撰)二冊ニ朱点ヲ加フ、コノ日、父心泉宗月ノ年忌辰ニアタル。巻尾

識語ニ「天文六稔丁酉春三月念二、於善惠境界信筆朱句了、蓋此日老父心泉年忌之辰、屈指逝去已經四寒暑、吁、哀慕豈夫不淺也、瓢闍山人四十八齡」トアリ。(↓天文二年・八年条)〔集書目録〕〔猶〕(上)

三月、関東足利学校ノ玉崗瑞璵、上野長樂寺ノ賢甫義哲、真甫等、上洛シテ善慧軒ニ掛錫ス、七言律詩一篇ヲ製シテ之ニ寄ス。(↓天文七年三月条)〔猶〕(上)(中)〔今泉「熙春龍喜書状について」(東京大学史料編

纂所報 第17号)

四月、安芸定恵寺汝宗ノタメニ、『円通懺儀陳白』ノ跋ヲ製ス。〔猶〕(中)

八月、コレヨリ先、琉球国僧鶴翁智仙、上洛シテ善慧軒ニ掛錫シ、ソノ後関東ヲ遊歴シテ、コノ年夏、再ビ善慧軒ニ戻ル、コノ間十三年ナリ、ソノ帰国ニ際シ偈二篇ヲ製シテ餞行トス。〔猶〕(上)

マタソノ帰国ニ託シテカ、檀溪全叢ニ詩ヲ贈ル、ソノ序ニ「聊述十年前來話之懐云」トアリ。(↓大永七年七月条)〔猶〕(上)

九月八日、建仁寺如是院雪嶺永瑾示寂ス、鹿苑院主梅叔法霖ノ偈ヲ次韻シテ、追悼偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)〔建仁寺住持位次簿〕

十月三日、三条西実隆薨ズ、三会院天用真薫ノ韻ニ攀リテ追悼偈ヲ製ス。〔猶〕(上)

十一月、茨木氏夫妻、十三仏像ヲ図セシメテ、初七ヨリ三十三回忌預修ノ資トス、ソノ跋ヲ記ス。(↓天文六年二月十一日条)〔猶〕(中)

コノ年、省伯令慧、肥前ヨリ上洛シテ、大同精舎ヲ勝地ニ移ス、落成ノ日、茂彦善叢ノ賀詩ヲ和シテ一詩を製ス。〔鉄〕(下)

天文七年(一五三八)戊戌、四十九歳。

正月十一日、東福寺住持高岳令松等ト連署シテ、再住一節中ニ一日住持ノ長老アラバ先住ノ焼香スベキコトヲ定ム。〔東福寺誌〕

二月、性演藏主ノ父竹岩浄観禅門卒ス、追悼偈ヲ製ス。(↓天文八年二月条)〔鉄〕(下)

三月、長樂寺僧真甫、帰郷ニ臨ミ字説ヲ需ム、応ジテ「惟春字説」ヲ製シ、マタ餞詩ヲ製ス。(↓天文六年四月条)〔猶〕(上)(中)

四月五日、東福寺(五山)ノ幕府公帖ヲ受ク。〔東福寺文書(公帖類)〕

四月十二日、東福寺檀那帖ヲ受ク。〔東福寺文書(公帖類)〕

五月二十一日、東福寺二入寺(第二〇七世)、嗣香ヲ自悦守懺ニ捧ク、山門疏筠溪元良、諸山疏相国寺叔原宗菅、道旧疏建仁寺春沢永恩、江湖疏天龍寺天用真燾、同門疏如意庵茂彦善叢、白槌春庸宗恕、維那梅湖桂林、西班牙第一座琴岫受惊、後板座元惟春藤、書記長洪首座、藏主宝琛・礼璋、侍香蘭圃光秀首座、侍状明駿永遠侍者、侍客天瑞光勝侍者、侍衣守微藏主、侍藥玉瀧永璉侍者、上堂問話梅賢岑藏主、小參問話汝源令見藏主。「彭叔和尚法語」「東福寺誌」

六月十七日、衆評シテ、諸山公帖塔婆婆錢ヲ二貫文ト定ム。「東福寺誌」

六月、奥羽津輕護国寺僧瓊首座、同恕藏主、上洛シテ道号ヲ需ム、之ニ応ジテ惟玉字偈、文室字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

七月一日、コレヨリ先天文六年、天龍寺策彦周良、大内義隆派遣ノ遣明副使トシテ周防ニ下リ、コノ日、博多ニ着ク、天文八年五月、寧波ニ着キ、天文十年十月、帰国上洛ス、「詩以饒西山策彦老禪南遊之行色」ノ作アリ。(天文十三年条)「猶」(上)「初渡集」

七月七日、衆評シテ、維那職登庸制ヲ定ム。「東福寺誌」

七月二十日、退院上堂ス。「彭叔和尚法語」

八月一日、東福寺再住。「彭叔和尚法語」

十月三日、善慧軒ニ於テ『湖海新聞』他ヲ抄写ス。「東語」(二四)

十月九日、東福寺第二〇二世檀叔光悦、宝勝院ニ示寂ス、因リテ追悼偈ヲ製ス。「彭叔和尚法語」「鉄」(下)

冬至ノ翌日、退院シテ善慧軒ニ戻ル。「猶」(上)

十一月、近江虎溪寺僧東香、人ヲ介シテ道号ヲ需ム、応ジテ竺岑字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

十二月八日、コノ日ヨリ二十六日マデ、先ニ抄書加點シタル『山谷詩集注』ヲ継天寿戲所藏本月舟寿桂私抄ヲ借りテ補フ、「今茲冬節、惠峯退院之後、就継天老人、借秘本謄写、自臘八至同二十六糞、畢其功

焉」ノ記事アリ。「集書目錄」「帝國図書館抄本採訪録」

十二月十二日、建仁寺春芳首座ノ冬節兼払ヲ了シ周防ニ帰ルヲ、詩ヲ以テ饒行ス。「猶」(上)

天文八年(一五三九)己亥、五十歳。

正月一日、賀正ニアタリ、母ヲ詠ズル一詩ヲ作り常楽庵主梅湖桂林ニ贈ル、梅湖ノ母大和国ニアリ、彭叔母ノ善惠軒ニアルコトヲ挙ゲテ自ラノ不孝ヲ嘆ズ、翌日、彭叔詩ノ韻ヲ和ス詩ヲ持チ来リ、ソノ後門人ニ命ジテ和セシム、彭叔、門人ニ謝意ヲ表シテ和詩四篇ヲ贈ル、マタ建仁寺継天寿戲、東福寺藕絲軒文餘令緒ヨリ和詩到ル、併セテ十一篇ニ及ブ。「猶」(上)

二月六日、母心月妙泉、善惠西軒ニ於テ俄ニ逝去ス、三聖寺延寿堂ニ於テ火葬、乘炬偈アリ。「猶」(上)「下火拈香」

二月十二日、コノ日、母心月妙泉初七日忌辰、コノ年正月ニ贈リシ賀正詩ノ韻ヲ用ヒテ一偈ヲ製ス。「猶」(上)

二月、性演藏主、亡父淨観ノタメニ観音懺儀一帙ヲ印摺ス、因リテ跋ヲ書ス。(↓天文七年二月条)「猶」(中)

三月二十五日、母心月大師ノ尽七日忌ニアタリ、一偈ヲ製シテ追悼ス。「猶」(上)

五月一日、東福寺第三住。「彭叔和尚法語」「鹿苑院公文帳」

五月三日、衆評シテ、東福寺僧衆ノ端午印地打ヲ見物スルコト等ヲ禁ズ。「東福寺誌」

五月二十七日、文餘首座等、藕絲軒ニ於テ東福寺第一八三世汝南惠徹三十三回辰ヲ営ム、因リテ追悼偈ヲ製ス。(↓永正四年七月二日条)

「彭叔和尚法語」「鉄」(下)

五月下流、天龍寺如天年少ノ試毫ヲ次韻ス。「猶」(上)

閏六月二十六日、衆評シテ、常楽庵塔主ヲ欠ク時ハ、他寺東堂西堂ノ

輪番ニ六ヶ月勤ムルコトヲ定ム。「東福寺誌」

七月四日、梅霖守龍ニ湖月信鏡ヨリ受ケシ三体詩抄『家法詩絶句』ヲ  
伝授シ、跋ヲ記ス。(↓天文十一年五月条)〔猶〕〔中〕  
七月十六日、衆評シテ、結制冬至頭首遷寮時ノ、方丈香錢ヲ二百文ト  
定ム。「東福寺誌」

八月二十四日、洛北聖壽寺ニ於テ徳大寺実淳七周忌辰営ム、因リテ追  
悼偈ヲ製ス。(↓天文二年八月二十四日条)〔鉄〕〔下〕

八月、近江善福寺慶窓禪師ノ三回忌ニアタリ、小師承頓藏主、ソノ頂  
相ヲ描カシメテ賛ヲ需ム、之ニ応ジテ著賛ス。「鉄」〔上〕

十月九日、曹洞宗宏智派長松乘彭、コレヨリ先天文六年六月、官資ヲ  
以テ建仁寺公帖ヲ受ケ、天文八年九月十七日再ビ公帖ヲ受ク、コノ日  
入寺、ソノ諸山疏ヲ製ス。「猶」〔下〕「鹿苑院公文帳」

十二月八日、月舟寿桂七年忌ニ際シ、追悼偈ヲ製ス(↓天文二年十二  
月八日条)〔鉄〕〔下〕

天文九年(一五四〇)庚子、五十一歳。

正月二十七日、東福寺堂塔兵火ニ罹ル、三月、莊嚴藏院修造幹縁偈ヲ  
製ス。署名「東福住山彭叔叟守仙」。「鉄」〔下〕

正月、コレヨリ先、去年十二月九日、畠山義総室没ス、義総、一詩ヲ  
製ス、コノ春訃音到リ、二偈ヲ製シテ追悼ス。「鉄」〔下〕

二月、伊賀弥勒禅寺ノ徒、開山初山和尚ノ肖像ヲ描キテ賛ヲ需ム、応  
ジテ著賛ス。「鉄」〔上〕

三月二日、頂相ニ自賛ヲ著ス。「鉄」〔上〕

三月五日、能登下向ノ途中、越前七里半ニ於テ山花ヲ見テ詩ヲ製ス。

〔猶〕〔上〕

三月、能登七尾城ニ於テ、畠山義総ノタメニ黄山谷詩集ヲ講ズ。(↓  
天文十四年四月条)〔鉄〕〔下〕〔猶〕〔上〕「米原正義『戦国武士と文芸の

研究』第一章「能登畠山氏の文芸」

四月十六日、七尾山釣山齋ニ於テ「臨濟録」ヲ講ズ、越中興化寺僧宗  
繼藏主、ソノ席ニ列ナル、道号ヲ需ムニ応ジテ祖林字偈ヲ与フ。「鉄」

〔上〕〔猶〕〔上〕

コノ頃、虎伯ノタメニ「釣山」ト題シテ詩ヲ製ス。「猶」〔上〕

四月二十一日、招月軒ニ於テ詩歌会アリ、「雨中聴鶉」ト題シテ詩ヲ  
製ス。「猶」〔上〕

コノ頃、釣山老衲虎伯、雨中鬱懷ヲ慰セントシテ詩ヲ贈ラル、ソノ韻  
ヲ和シテ詩ヲ製ス。「猶」〔上〕

コノ頃、七尾山中ノ二三ノ友人ニ携セラレテ閑静ノ居所ニ赴キ茶話、  
移刻ヲ忘ル、ソノ茶具、日本ノ珍産ニ限ラズ、支那、南蛮、琉球、朝  
鮮ノ奇物ナリ、主人、名ヲ福ト称シ、所謂遁世故山胸襟ノ者ナリ、翌

日、一詩ヲ製シテ謝意ヲ表ス。「猶」〔上〕

五月一日、コレヨリ先両月、能登七尾城中ニアリ、昨日、七尾城下所  
口港ヨリ舟シテ、熊来ノ栗棘庵末寺定林寺ニ到ル、住持以三崇伊トハ  
東福寺ニ別離シテ以来、十余年後ノ再会ナリ、礼シテ一詩ヲ贈ル。

(↓天文十年三月十日条)〔猶〕〔上〕「中島町史 通史篇」

五月五日、蒲辰ニアタリ一詩ヲ製ス、後日、南禅寺僧仁友、之ヲ和シ  
テ一律詩ヲ贈ラル、重ネテ前韻ヲ次シテ詩ヲ製ス。「猶」〔上〕

コノ日、虎伯ニ詩ヲ贈ラル、一詩ヲ賦シテ返礼ス。「猶」〔上〕

六月十二日、留雲軒如月藏主ノ机上ニ建仁寺祖溪徳俊ノ『水拙文集』  
ヲ見テ、演子ニ命ジテ謄写セシム。「雑」〔十四〕

六月十九日、コレヨリ先三月初、夢窓下祖林周芳、マタ越中ヨリ来タ  
リテ定林寺ニ掛錫ス、ソノ他行ニ臨ミ、京ニ於ケル再会ヲ期シテ詩ヲ  
贈ル。「猶」〔上〕

七月七日、温井氏家臣荻野左金吾宗忠、戒名兼華号ヲ需ム、因リテ龜

年榮椿ト名ツケ、字偈ヲ与フ、マタ預修秉炬法語ヲ製ス。「能州温井一人之荻野四郎左衛門預修之秉炬、予授戒名」ノ記事アリ。「鉄」(上)「下火拈香」

七月八日、能登ヨリ帰洛セントシテ、昨日、虎伯、星夕詩ヲ寄セテ別懷ノ意ヲ伝ヘラル、韻ヲ話シテ答礼ス、マタ輪島聖光寺一清侍者、虎伯ノ詩韻ヲ和シテ贈ラル、前韻ニ依リ答礼ス。「猶」(上)

八月四日、前万寿筠溪元貞、東福寺同聚院ニ於テ示寂ス、ソノ追悼偈ヲ製ス。「鉄」(下)

八月、備中井山宝福寺天年少、道号ヲ需ム、大初二大字ト字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

コノ頃、細川政元家臣亡友井上正朝、コレヨリ先大永六年戦死ス、日頃、大徳寺ニ参禅シ、東溪宗牧ニ諱号宗岩、小溪紹愆ニ字号花翁ヲ与ヘラル、龍藏主ノ需メニヨリ花翁字偈ヲ製ス。「鉄」(上)

マタ、井上正朝室茨木氏、大徳寺興臨院(能登畠山義総建立)初祖小溪紹愆ニ諱号宗瑞ヲ与ヘラル、龍藏主ノ需メニヨリ雲岳ト名ツケ、字偈ヲ製ス。「鉄」(上)

十月十二日、東福寺第二百九世叔龍東興入寺、山門疏ヲ製ス。「猶」

(下)「鹿苑院公文帳」

十二月十七日、大徳寺興臨院徹岫宗九ノ徳禅寺ヲ辞スルヲ聞キ、偈ヲ製シテ贈ル。「鉄」(下)

天文十年(一五四二)辛丑、五十二歳。

正月二日、去冬、善慧軒ニ新井戸ヲ掘ル、須達長者井ト名ツケ偈ヲ製ス。「鉄」(下)

二月六日、母心月妙泉三年忌辰ヲ営ム、因リテ一偈ヲ製ス。(↓天文八年二月七日条)「鉄」(下)

三月十日、去冬、能登定林寺以三崇伊示寂ス、追悼偈ヲ製シテ鶴天崇

翰ニ贈ル。(↓天文九年五月一日条)「鉄」(下)

三月、コノ月ヨリ七月マデ能登ニ下向ス。「予天文辛丑之歳遊于能者、自季春逮初秋矣」ノ記事アリ。「鉄」(上)

四月、近江西光寺ノ惠隆首座ニ虎岑字偈ヲ与フ。署名「東福住持比丘彭叔叟守仙」。「鉄」(上)

五月一日、東福寺第四住。「彭叔和尚法語」

六月、杲天宗惠ノタメニ、住妙心山門疏ヲ製ス。「猶」(下)

八月十六日、備後ノ僧興円首座ノタメニ月岑字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

八月二十一日、大風雨ニヨリ諸堂敗壞ス。素話ニ「怪風暴雨倒我諸堂、祇今秋冷、還有出隻手底縮郎、麼」トアリ。「彭叔和尚法語」

冬、亡友吉甫興縁リノ『唐賢家法詩集』『古文真宝後集』ヲ購入ス。

「猶」(中)

十一月、日向大光寺僧竹岩、上洛ノ次ニ彭叔ヲ問フ、翌日、一詩ヲ製シテ餞行ス。「猶」(上)

十二月十四日、茂彦善叢示寂ス、偈ヲ製シテ追悼ス。「鉄」(下)「東福寺誌」

天文十一年(一五四三)壬寅、五十三歳。

正月晦日、亡友吉甫興首座ノ鸞岡瑞佐『古文真宝後集』講義私鈔ヲ以テ私本ニ謄写ス。(↓天文十七年三月五日条)「猶」(中)

二月、長塩氏宗英、ソノ息猷甫藏主ヲ介シテ雅号ヲ需ム、梅嶺字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

三月、能登大寧寺僧翼ノタメニ、鸞溪字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

閏三月、建仁寺驢雪鷹瀾ノ聯句ニ跋ス。「猶」(中)

五月、「書唐賢家法詩集後」ヲ記シテ、自身ノ「三体詩」講義伝授ノ経緯ヲ要約ス。(↓天文八年七月四日条)「猶」(中)

七月、コレヨリ先四月、伊勢龍光寺僧日源昭藏主、上洛シテ栗棘庵ニ

掛錫ス、毎晨詩題ヲ乞フテ、六月マデニ詩百篇ニ至ル、批点ヲ加シ、需メニ応ジテ跋ヲ記ス。(↓天文十四年正月二十四日条) [猶] (中)

八月一日、東福寺第六住。「彭叔和尚法語」

八月、建仁寺十如院東暉永景示寂ス、潤甫周玉ノ悼詩ノ韻ヲ和シテ追悼ス。[鉄] (下)

九月、「増禪林集句韻後序」ヲ記ス。(↓天文十八年十二月十四日条)

[猶] (中)

九月、肥前正覚寺ノ円陽首座、人ヲ介シテ字号ヲ需ム、天翁字偈ヲ与フ。[鉄] (上)

十一月、日向仏日山〔龍興山大慈寺カ〕ノ僧育首座、人ヲ介シテ字号ヲ需ム、春湖字偈ヲ与フ。[鉄] (上)

十二月二十三日、東白軒ニ於テ蘭圃光秀所持本『南村輟耕録』三十卷ヲ抄写ス。[東語] (二十六)

天文十二年(一五四三) 癸卯、五十四歳。

正月二日、「金字茶」ト題シテ一詩アリ。[鉄] (下)

正月、鏡年少タメニ曹溪字銘偈、マタ永哲ノタメニ惟杏字銘ヲ製ス。

[猶] (下)

三月三日、「紅入桃花嫩」ト題シテ誌アリ。[猶] (上)

四月十六日、近江正法山意足軒松隱玄吟首座寿像ニ著賛ス。署名「前東福彭叔叟守仙」[鉄] (上)

四月二十日、衆評シテ、東福入寺ノ伝衣ノ法ヲ改ム。[東福寺誌]

五月十日、衆評シテ、本寺・普門寺ノ開山忌並ビニ入院ヲ除イテ、聖

一國師塔所常楽庵ノ什物ヲ他へ貸借スルコトヲ禁ズ。[東福寺誌]

五月十三日、コレヨリ先享祿元年ニ、月舟寿桂本ニヨリ首書及ビ朱墨

点ヲ写セシ五山版『希叟和尚正宗賛』四冊ニ、更ニ湖月信鏡ノ唐本ニ

ヨリ之ヲ加フ。(↓享祿元年十月二十日条) [集書目録]

五月二十二日、大癡賢諱、東福寺ニ入寺ス、山門疏ヲ製ス。[猶] (下)

[鹿苑院公文帳]

七月、コレヨリ先去年夏秋ノ交、奥羽雲門庵玉岡首座、上洛シテ莊嚴藏院ニ掛錫ス、ソノ帰郷ニ際シテ一偈ヲ製シテ餞行ス。[猶] (上)

八月六日、莊嚴門派浦雲長怡、百詩ヲ詠ジテ加点ヲ需ム、ソノ跋ヲ付ス。[猶] (中)

八月二十七日、潤甫周玉、建仁寺ニ入寺ス、道旧疏ヲ製ス。[猶] (下)

[鹿苑院公文帳]

八月二十九日、五山版『仏鑑禪師語録』三冊ニ朱点ヲ加フ。卷末識語ニ「雲岫本云、右朱句以宝渚大和尚(雲章一慶) 本写之、文卯仲穠廿九挑灯功畢」トアリ。(↓永正八年四月十一日条) [石井積翠軒文庫善

本書目]

八月、龍吟庵付庸近江称名寺ノ孝首座、書ヲ致シテ雅号ヲ需ム、古学字偈ヲ与フ。[鉄] (上)

八月、コレヨリ先、能登畠山義総、東福寺桂昌庵梅湖桂林ヲ大寧寺ニ招ク、音少年之ニ從ヒ三年ヲ経タリ、書ヲ致シテ雅号ヲ需ム、因リテ補岩字銘ヲ製ス。[猶] (下)

十一月二十七日、継天寿職、建仁寺ニ入寺ス、諸山疏ヲ製ス。[猶] (下)

[鹿苑院公文帳]

十一月、宝林庵付庸美濃田照寺ノ僧安、人ヲ介シテ雅号ヲ需ム、泰甫字偈ヲ与フ。[鉄] (上)

十一月、能登定林寺ノ僧崇翰、上洛シテ東福寺栗棘庵ニ掛錫ス。(↓天文十五年六月条) [猶] (中)

十一月、コノ月末、能登七尾城に内訌アリ、温井氏ニ軍功アリ。[片

岡樹裏人『七尾城の歴史』]

十二月三日、衆評シテ、常楽庵入牌衆ノ年忌ハ先規ノ如ク、毎月忌ハ

施入主ノ多少ニヨラス営ムコトヲ定ム。「東福寺誌」

コノ年、コレヨリ先天文十一年六月、奥羽東昌寺雲門庵長机首座、上洛シテ東福寺莊嚴藏院ニ掛錫ス、需メニ応ジテ玉岡字銘ヲ製ス。「猶」(下)

コノ年、永明門派鏡年少、去年東福寺ニ掛錫シ、後ニ撰津善住寺ニ移ル、人ヲ介シテ雅号ヲ需ム、梅南字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

コノ年、撰津善住寺月岑首座ノ門人妙龜少年、好學不倦、筆法ニ秀レタリ、人ヲ介シテ雅号ヲ需ム、九江字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

天文十三年(一五四四) 甲辰、五十五歳。

二月十日、コレヨリ先前円覚龍津伯玉ノ徒、華岳建胃ノ龍津追悼偈真蹟ノ焼失セルヲ惜シミ、彭叔ニ染筆ヲ需ム、コノ日、応ジテ之ヲ写シテ跋ヲ加フ。「猶」(中)

三月上澣、コレヨリ先、能登畠山氏家臣温井総貞、七尾城内私第二小亭ヲ構へ、独楽亭ト名ヅク、需メニ応ジテ温井氏ノタメニ「独楽亭記」一卷ヲ撰ス、マタ、天龍天用真燾、相国梅叔法霖、鹿苑惟高妙安、相

国仁如集堯、南禅梅屋宗香、建仁繼天寿猷、天龍江心承董等ノ五山宿老、彭叔ト共ニ「独楽亭詩」ヲ寄セルアリ、先ニ能登ニ下向セシ時ハ

未ダ此亭成ラズ、文中「私第在七尾山大石溪之半巖者、星霜惟深矣、頃者、築小亭乎第一隅、顔以独楽、蓋唏顔司馬温公之独樂園也、公

遠就京寺諸耆宿、需亭詩、兼責予作亭記、予再入能而赴其第目擊其境、然未創此亭之先也」ノ記事アリ、マタ「北望海之澗、或号能來、湧浦、或号松百・石崎、或号屏風崎・世良志、(略)府之東北有島、称能登島」ト記シテ七尾湾ノ要地ヲ挙グ、先度ノ見聞ニヨルナリ。「猶」(中)「下

火拈香」[梅屋和尚文集]「善端直」[能登七尾城跡の調査]「日本歴史」五九四号

五月十五日、保叔首座、彭叔先師不琢三十三回忌辰齋会ヲ営ム、七律

ヲ製シテ追悼ス、「今茲天文十又三甲辰夏五之望、忝遇師翁三十三百之忌景」ノ記事アリ。(↓永正八年五月十五日条)「猶」(上)

六月六日、鹿苑院梅叔法霖ニ、能登ヨリノ独楽亭詩ノ札二百銭ヲ贈ル。「鹿苑日録」

六月二十三日、琴岫受惊、コレヨリ先天文十二年十一月二十七日、東福寺公帖ヲ受クモ病床ニ臥シテ入院ニ及バズ、コノ日示寂ス。(↓天文十三年八月四日条)「彭叔和尚法語」[鹿苑院公文帳]「鉄」(下)

六月、コレヨリ先、献甫光瑛、肥前二下向ス、コノ月、七律ヲ贈リテソノ帰京ヲ促ス。「猶」(上)

八月四日、琴岫受惊ノ六七日忌辰ニアタル、偈ヲ製シテ追悼ス。「彭叔和尚法語」

八月二十六日、前関白准三后近衛尚通薨ス、法名大證、後法成寺殿ト号ス、享年七十三。九月七日、東福寺海藏院ニ葬ル、近衛植家、挽詩一章アリ、韻ヲ和シテ偈ヲ製ス。「猶」(上)「義雲和尚等法語」[東福寺誌]

八月、琴岫受惊頂相ニ著賛ス。(↓天文十三年六月二十三日条)「鉄」(上)

九月十八日、岐陽方秀ノ「中峯広録抄」十冊ヲ書写ス。「東福寺誌」

九月二十七日、コノ日ヨリ十二月二日マデ、「万松老人評唱天童覺和尚頌古從容庵録」(明釈行秀撰)三冊、「林泉老人評唱投子青和尚頌古空谷伝声集」(元釈義聰編)三冊、「林泉老人評唱丹霞頌古虚堂習聽録」(元釈慧泉編)三冊ヲ書写ス。「集書目録」

十月三日、衆評シテ、東福寺ニ於テ博奕、双六ヲ禁止ス、張行人ヲ聞出シタル者ニ褒美三貫文ヲ与フコトヲ定ム、連署中ニ「住寺守仙」ト

アリ、天文十一年八月一日第六住、天文十四年二月一日第八住ノ記事アリ、コノ間ニ上堂等ノ記事アリ、第七住ノ年月日不詳。「東福寺誌」

〔彭叔和尚法語〕

十一月、能登樂音寺源才首座ニ文窓字偈ヲ与フ、マタコレヨリ先天文十二年秋、樂音寺僧惠闇藏主、上洛シテ栗棘庵ニ掛錫ス、コノ頃、笑嶺字偈ヲ与フ。〔鉄〕(上)

十一月、安芸西禅寺文岫源梁、上洛シテ門人惠東侍者ノタメニ字号ヲ需ム、和仲字銘ヲ与フ。(↓天文三年条)〔猶〕(下)

十二月一日、自悦守憚二十五回忌辰ニアタリ、加賀ノ月汀守澄卜計リ、善慧軒ニ於テ齋会ヲ営ム、能登ノ虎伯老禪、千疋ヲ贈リ来ル、虎伯ハ既ニ閏十一月一日ニ預メ齋ヲ営ミ、能登大寧寺梅湖桂林、偈ヲ真前ニ呈ス、数日後、虎伯、書簡ヲ致シ、簡尾ニソノ偈ヲ記シテ彭叔ノ和ヲ需ム。(↓天文十四年六月条)〔鉄〕(下)

十二月八日、善慧軒ニ於テ、五山版『雲谷和尚語録』一冊ニ朱点ヲ加フ。〔石井積翠軒文庫善本書目〕〔弘文莊古板本日録 昭和四十九年〕

コノ年、東福寺浴室ヲ修理ス、「慧日淋汗化疏引」ヲ製ス。〔猶〕(中)〔雑〕(七カ)〔東福寺誌〕

コノ年、策彦周良、大内義隆ノ命ニ依リ正使トシテ明ニ赴カントス、詩ヲ製シテソノ行ヲ餞ス。(↓天文七年七月一日条)〔猶〕(上)〔再渡集〕

天文十四年(一五四五)乙巳、五十六歳。

正月八日、相国寺仁如集堯所持ノ『全相漢書』三冊ヲ借り、コノ日ニ第一卷、二十三日ニ第二卷ノ謄写ヲ了ス。〔集書日録〕

正月二十四日、伊勢龍光寺僧日源昭藏主、微疾ニ罹リ俄ニ逝去ス、一偈ヲ賦シテ悼ム、マタ一衆ノ和章ヲ需ム。(↓天文十一年七月条)〔猶〕(上)

二月一日、東福寺第八住。〔彭叔和尚法語〕

二月九日、衆評シテ、東福寺開山粥齋、旦望、月忌ノ菓子点心等ノ制

ヲ定ム。〔東福寺誌〕

二月十六日、仁如集堯ノタメニ、住相国道旧疏ヲ製ス。〔猶〕(下)〔鹿苑院公文帳〕〔鏤氷集〕(天)

二月二十一日、梅屋宗香、南禅寺ニ入寺ス、ソノ疏ヲ製ス。〔猶〕(下)〔鹿苑院公文帳〕

四月十六日、能登定林寺僧元明朝首座、コレヨリ先、東福寺栗棘庵ニ掛錫ス、帰郷後、定林寺側ニ洗心室を構フ、コノ日、一偈ヲ製シテ之ヲ賀ス。〔鉄〕(下)

四月、コレヨリ先、天文九年三月、能登下向ノ際ニ、定林寺正伝庵珠岩昶ヲ知ル、九条家家司石井氏ノ出自ナリ、コノ年第一座トナル、賀シテ一偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)

五月、摂津景寿寺僧周妍書記、コレヨリ先、相国寺景甫寿陵二月窓字偈ヲ授ケラレ、軸シテ十襲シタルモ、国戦乱シ賊徒ノタメニ奪ハル、人ヲ介シテ号偈ヲ需ム、之ニ応ジテ書キ与フ。〔鉄〕(上)

六月頃、コレヨリ先、能登大寧寺僧補岩、京ニ帰り剃髮得度シテ再ビ能登ニ行ク、之ニ託シテ去年自悦二十五回忌時ノ梅湖偈ニ和シタル偈ヲ虎伯ニ投ズ。(↓天文十三年十二月一日条)〔鉄〕(下)

七月十二日、能登守護畠山義総卒ス、法名興臨院殿伝翁徳胤、享年五十五。(↓天文十六年七月十二日条)〔羽昨市史 中世・社寺編〕

七月十又日、常樂庵ニ於テ諸書ヲ閲覽抄写シタル『骨董稿』一冊アリ。(↓享祿四年九月十八日条)〔石井積翠軒文庫善本書目〕

九月九日、叔龍東興ノ重九上堂ノ偈ヲ次韻シテ、一偈ヲ製ス。〔鉄〕(下)

九月十一日、善慧軒ニ於テ、五山版『嘉泰普灯録』(宋、釈正受編)八冊(首尾二冊缺本)ニ補書、朱墨点ヲ加フ。〔集書日録〕

九月十三日、天台座主、東福寺ニ滞在シ詩ノ応酬アリ、帰駕ニアタリ

山中耆納等ソノ韻ヲ和ス。「猶」(上)

九月、「建聖開山明室和尚慈像贊」「正持開山汝桂和尚遺像贊」ヲ製ス。

〔鉄〕(上)

九月、建聖寺瑞派座元、十余年前二人ヲ介シテ雅号ヲ需メ、惟宗字偈ヲ与フ、ソノ後寺ノ屢騷霄ニ値ヒテ軸ヲ失フ、今秋、書ヲ寄セテ号頒ヲ付セシム、応ジテ字偈ヲ与フ。署名「前惠日彭叔山人守仙書于栗棘塔下」。「鉄」(上)

九月、建聖派末ノ雲叟韶公座元、栗棘庵ニ掛錫スルコト二十余年、コノ秋、号頒ヲ需ム、応ジテ一偈ヲ与フ。「鉄」(上)

コノ月カ、建聖門下ノ必通勝公座元、書ヲ寄セテ字偈ヲ需ム、応ジテ二大字ト一偈ヲ与フ。「鉄」(上)

十月十二日、コレヨリ先九月二十九日、由良門徒慶統庵久峯座元示寂ス、ソノ供養ノタメニ一偈ヲ製ス。「鉄」(下)

十月二十二日、畠山義総ノ百日忌ニアタリ、鹿苑院主惟高妙安、拈香法語ヲ製ス。「叢林文藻」

十月、安芸成就寺如麟西堂ノ需メニ応ジテ、成就寺殿天秀祖祐禪定門(小早川正平)遺像ニ著賛ス。「鉄」(上)

十一月一日、衆評シテ、東福寺方丈修造ノタメニ坐公文寄進ノ規式ヲ定ム。住持高岳令松。「東福寺誌」

十二月一日、「臘朔達磨忌」ト題シテ四偈ヲ製ス。(↓永正十四年五月十四日条)「鉄」(下)「今泉・早苗共著『本覚国師虎関師鍊禪師』」

十二月十三日、衆評シテ、常楽庵祠堂錢ノ配当利息ノコト、本寺出錢貢錢ノ撰錢スベキコトヲ定ム。住持叔龍東興。「東福寺誌」

コレヨリ先、能登守護畠山義統ノ相続ヲ祝シテ、東福寺栗棘庵ヨリ物ヲ贈ル、コノ日、温井総貞ヨリ答状アリ。「栗棘庵文書」

天文十五年(一五四六)丙午、五十七歳。

正月二日、「出世松」ト題シテ一偈アリ。「鉄」(下)

正月、天龍寺柏軸年少ノ試筆ノ韻ヲ和ス。「猶」(上)

二月一日、東福寺第九住。「彭叔和尚法語」

三月二日、大内義隆、使僧ヲ遣ハシ、マタ栗棘庵ヲ介シテ畠山義統相続ノ祝意ヲ伝ヘシム。「栗棘庵文書」

四月五日、衆評シテ、東福寺門前ニ於テ喧嘩爭論スルコトヲ禁ズ。

〔東福寺誌〕

四月十五日、能登定林寺僧崇翰首座、東福寺ニ於テ乗払ス。「鉄」(中)

五月二十九日、コレヨリ先、善慧軒ニ於テ、能登定林寺惠藤首座ノタメニ、『日用清規』ヲ講ズ、コノ日、第三講ヲ了ス。署名「野釈守仙五十七歳」。(↓永正十五年九月二十七日条)「日用規範抄」(東福寺靈雲院藏)

六月、奥吏部公ノ需メニ応ジテ、ソノ夫人柏庭宗意信女遺像ニ著賛ス。

〔鉄〕(上)

六月、能登定林寺僧崇翰ノ需メニ応ジテ、鶴天字説ヲ与フ。(↓天文十八年十月四日条)「猶」(中)

七月、日向大光寺長温首座、コレヨリ先関東村校ニ学ブコト十年、コノ月、東福寺莊嚴藏院ニ掛錫ス、同門ノ僧ヲ介シテ字号ヲ需ム、応ジテ湯岑字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

九月十三日、建仁寺僧文宝藏主、コノ日、兵乱ノタメニ死去ス、ソノ師繼天寿哉ノタメニ悼偈ヲ製ス。「猶」(上)

十月十日、無住道暎、無住大円国師ト勅諡セラル、因リテ「尾州長母寺開山無住大円国師諡号偈并引」ヲ製ス。「鉄」(下)「東福寺文書」

冬至、月汀守澄首座、万寿寺僧善善首座、東福寺ニ於テ乗払ス。「鉄」(中)

十二月十七日、玻公年少ノ詩ヲ示サレ、楮尾ニ二詩ヲ作リテ贈ル。

〔猶〕(上)

コノ年、連署シテ、東福寺秉弘ノ制ニツキ定ム。〔東福寺誌〕

天文十六年(一五四七)丁未、五十八歳。

正月、松月軒ノ桂董少年試筆ヲ和シテ、一偈ヲ贈ル、次テ景谷ノ字号ヲ与フ、マタ鶴天ニ代リテ和韻一偈ヲ製ス。〔猶〕(上)

正月、コレヨリ先去年春、安芸見性寺慶玕書記、栗棘庵ニ掛錫シ、彭

叔ノ普門寺ニ住スルニ近侍ス、玉叟ト名ヅケテ字序ヲ製ス。〔猶〕(中)

二月一日、東福寺第十住、普門寺兼任。〔彭叔和尚法語〕

四月、越中長慶寺富春軒光永都寺、雪溪座元ヲ介シテ雅称ヲ需ム、椿室字偈ヲ与フ。〔鉄〕(上)

五月七日、南禅寺公帖ヲ受ク。〔東福寺文書(公帖類)〕〔鹿苑院公文帳〕

〔南禅寺住持籍〕

五月上澣、「咲齋記」アリ。〔猶〕(中)

五月、京ノ兵乱ヲ避ケテ能登ニ下向ス。〔京師頃者罹騷屑、衆中無意於此、口掛壁耳、吁、花飛葉落遂隔年華矣、今茲之夏、予以故來寓于定林之附庸崇寿山寺〕ノ記事アリ。〔鉄〕(下)

六月十日、能登崇寿寺ニ於テ一詩ヲ製ス、コレ以前ニ定林寺ニ寓シ、

同寺ニ於テ「六月霖雨」ノ詩アリ、釣山老人虎伯ヨリ書簡ト詩ヲ贈ラレ、和シテ奉答ス。〔予居定林之客檐者、于茲一旬有餘矣〕ノ記事アリ。〔猶〕(上)

六月下澣、能登ノ人雪溪座元、越中興源・竹林両寺ヲ領ス、コレヨリ

先天文十二年秋、東福寺栗棘庵ニ掛錫シ、コノ年結制ニアタリ秉弘ヲ

遂ゲ、越中長慶・興化寺ノ公帖ヲ受ク、共ニ能登ニ下向シテ二旬有餘、

ソノ越中ニ帰ルニ際シテ、偈ヲ製シテ瑞世ヲ賀ス。〔猶〕(上)

〔猶〕(中)

六月、眼公藏主、越中ニ赴クニ際シテ、字号ヲ需ム、慈雲号序ヲ与フ。

七月十二日、能登守護畠山義総ノ三年忌齋アリ、「普賢經」ト題シテ

追悼ノ偈ヲ製ス。(↓天文十四年七月十二日条)〔鉄〕(下)

七月十五日、崇寿寺ニ於テ頂相ニ自賛ス。署名「前南禅彭叔山人守

仙」。〔鉄〕(上)

七月、コレヨリ先天文十五年四月、定林寺崇悦首座、東福寺ニ掛錫シ、

先ニ得夫和尚ヨリ与ヘラレシ字号雲嶺ノ義ヲ解クコトヲ需ム、コノ月、

雲嶺字銘ヲ製ス。署名「前住東福後住南禅彭叔叟守仙書于能之崇寿境

界」。〔鉄〕(下)

閏七月五日、温井総貞室死ス、法名桃溪宗仙、享年三十八。追悼ノ偈

ヲ製ス。〔鉄〕(下)〔下火拈香〕

閏七月七日、コノ頃能登畠山氏ニ内訌アリ、畠山義統ノ叔父駿河入道、

加賀・越中・能登ノ一向宗門徒ノ支援ヲ頼リニ能登ヲ攻ム、コノ日、

畠山義統、羽咋郡押水ニ駿河入道・加越一揆軍ト交戦シテ、之ヲ鎮圧

ス、温井一族ノ軍功アリ。〔羽咋市史 中世・社寺編〕

八月二日、子春性東上坐ノタメニ頂相ニ自賛ス。〔鉄〕(上)

コノ頃カ、定林寺栄侍者ノタメニ「山水独舟図」ニ著賛ス。〔鉄〕(上)

九月一日、東福寺諸老ノ帰京ヲ促ス連署書簡至ル、之ニ返信ス。〔時

已迫秋冬、海路漸阻絶、况老病日加哉、伏需尊察、明年春夏之交、乘

商舶、而生還〕ノ記事アリ。〔猶〕(下)

十一月二日、温井総貞、鳳至郡聖光寺ニ於テ、ソノ父温井孝宗ノ十七

年忌齋ヲ営ム、ソノ香語等ヲ製ス。〔鉄〕(下)〔米原正義前掲書〕

十一月六日、梅南妙春大姉率塔婆銘ヲ製ス。〔猶〕(下)〔下火拈香〕

十一月十三日、崇寿寺ニ於テ、淳公藏主ノタメニ「江湖風月集」ヲ講

ズ、コノ日、第一講アリ。〔龍門文庫善本書目〕

十二月九日、能登定林寺秀学藏主、人ヲ介シテ字号ヲ需ム、雪岑字偈

ヲ与フ。〔鉄〕(上)

十二月十二日、崇壽寺ニ於ケル『江湖風月集』講義、コノ日、第六講ニ及ビ了ス。(↓永正十年十二月十六日条)「龍門文庫善本書目」  
コノ頃、輪島聖光寺ニ数日留錫ス、主盟一清老禪ヨリ別離ノ詩ヲ贈ラル、一詩ヲ製シテ答札ス。「猶」(上)

マタ東福寺友月龍珊ヨリ二詩到ル、ソノ韻ヲ和シテ答札ス。「猶」(上)  
天文十七年(一五四八)戊申、五十九歳。

正月二日、去冬、コレヨリ先五岳ニ探索セシ一書ヲ定林寺玄規藏主机上ニ発見シテ書写ス、コノ日、「跋請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼三昧儀私鈔」ヲ加フ。「猶」(中)

正月七日、定林寺ニ於テ「善惠室」ト題シテ八頌ヲ製ス。「為年頭札加二字於室字上、謂之室頌」ト題下ニアリ。「鉄」(下)

コノ頃、定林寺鶴天宗翰ノ俗弟却甫超公、定林寺僧五天驚、同祖林廓、泰岳果等ニ二号ヲ与フ。「猶」(上)

正月十一日、定林寺ニ於テ、祖林廓年少ノ雅会アリ、「花須連夜発」ト題シテ一詩アリ。「猶」(上)

正月十四日、定林寺ニ於テ、五天少年ノ雅席アリ、「春院書声」ト題シテ一詩アリ。「猶」(上)

正月十七日、定林寺ニ於テ、梅叔少年ノ雅筵アリ、「池塘草」ト題シテ一詩アリ。「猶」(上)

二月、定林寺玄桃藏主、去年臘末ニ二号ヲ需ム、コノ月、黙翁字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

コノ頃カ、定林寺台室首座ニ、希濟字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

三月五日、定林寺僧天質淳公藏主ハ能登畠山氏被官三宅氏ナリ、コレヨリ先上洛シテ東福寺ニ掛錫シ、彭叔ニ侍スルコト三年、去年、能登下向ニ際シテ随侍ス、コノ日、彭叔秘本『古文真宝後集』ヲ書写シテル、需メニ応ジテ跋ヲ加フ。(↓天文十一年正月晦日条)「猶」(中)

三月、前定林寺以三崇伊ノ門人玄守首座、コレヨリ先ニ得夫和尚ヨリ護心ト立字セラル、ソノ後因循トシテ字偈ヲ獲ズ年経ル、ソノ需メニ応ジテ一偈ヲ与フ。「鉄」(上)

三月、定林寺廉叔崇泉首座、コレヨリ先二月ノ夢告ニヨリ改名ヲ需メ、鷹凶ヲ示ス、依リテ「天鷹字説」ヲ製シテ与フ。署名「彭叔山人守仙、於登之崇寿旅簷下拜書」。「猶」(中)

四月二十五日、天鷹崇泉首座ノ需メニヨリ、前定林寺以三崇伊ノ頂相ニ著賛ス。署名「同門比丘善惠山人守仙焚香敬書」。「鉄」(上)

四月下澣、定林寺鶴天宗翰ノ寿像ニ著賛ス。署名「書于崇寿境界十住東福後住南禪彭叔叟守仙稽顙」。「鉄」(上)

五月三日、聖光寺泰岳安公首座ノ第一座転位ヲ賀シ、偈ヲ製ス。「鉄」(下)

五月、聖光寺惠慶首座ニ、叔雲字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

五月、鳳至郡ノ桂秀信女ノタメニ、預修秉炬法語ヲ製スル次ニ、春蘭字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

五月、能登東光尼寺主洪种ニ、菊泉字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

五月、能登竹幽庵主崇久比丘尼ニ、桂岩字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

五月、能登弘誓寺主宗福藏主ニ、花岳字偈ヲ与フ。「鉄」(上)

六月、能登ヨリ帰京ス。「予去歲夏五、遊登州、而今茲六月、歸于此山」ノ記事アリ。「猶」(上)

八月一日、東福寺第十一住。「彭叔和尚法語」

八月二十六日、大徳寺古岳宗巨弟子鶴仙宗永禪定尼ノタメニ、預修秉炬法語ヲ製ス。署名「前南禪見東福彭叔叟守仙」。「下火拈香」

九月上旬、安芸ノ玉叟書記、コレヨリ先、栗棘庵ニ掛錫シテ三年経タリ、彭叔ノ能登ヨリ帰京シテ間モナク帰郷セムコトヲ告グ、一偈ヲ製シテ餞行ス。「天文十七戊申九月上旬、帰京師始作」ノ記事アリ。「猶」

(上)

十月三日、衆評シテ、東福寺什物ハ頭首草飯並ニ瑞世祝齋ニノミ貸与スルコトヲ定ム。「東福寺誌」

十月十七日、兵乱後整理ノタメニ五年ヲ限り、東福寺無弘瑞世ヲ許シ、

官錢ヲ百貫文ト定ム、マタコノ日、開山忌ヲ修ス。「東福寺誌」

和尚法語」

十月、讃岐寒河郡得月庵主、法灯派正叔藏主、コレヨリ数年先、関東

村校ニ学ビ、今年七月、善恵軒ニ掛錫ス、需メニ応ジテ「景歐字銘并

引」ヲ製シテ与フ。「猶」(下)

十一月、伊予善心寺祖蔭首座、去年夏、東福寺ニ掛錫ス、二十年前ニ

建仁寺月舟寿桂ヨリ松岳字号ヲ与ヘラル、コノ月、帰郷ニ際シ需メニ

応ジテ、「松岳字説」ヲ製ス。「猶」(中)

十二月一日、臘朔達磨忌ニアタリ、偈ヲ製ス。(↓天文十四年十二月

一日条)「鉄」(下)

十二月八日、仏成道偈ヲ製ス。「鉄」(下)

天文十八年(一五四九)己酉、六十歳。

正月二日、「金柳」ト題シテ一偈アリ。「鉄」(下)

二月、前真如彦英永滉、去年二月、城北大興寺ニ示寂ス、能登ニ在リ

テ訃音ヲ聞ケリ、コノ月、彦英ノ徒玉瀨永璉、大慈庵ニ於テ一周忌齋

ヲ営ム、香仲見橘ノ追悼偈韻ヲ和シテ一偈ヲ贈ル。「鉄」(下)

六月二十六日、コノ頃、細川晴元、足利義晴・義藤ヲ擁シテ坂本ニ奔

リ、三好長慶上洛シテ東福寺ニ陣シテ、天下争乱トナル、コノ後十一

月、彭叔マタ近江田上ノ法泉庵ニ乱ヲ逃ル。「京師近歳角立蛮触久矣、

今茲天西六月念六、南兵俄又入洛西、繇此、無老無少、東奔而巢于深

山裡之松樹、西走而宿于浅水辺之芦花、南往北徠、而隱樵隱漁、隱緇

徒白丁者、惟夥矣、誰夫弗勝感傷乎、予亦遁輕蹤於湖南之法泉庵、蓋

所以不昧主盟溢溪首座之平素者也」ノ記事アリ。「猶」(上)

七月、安芸円満寺元昌藏主ノタメニ桂岩字偈ヲ製ス。署名「前南禅見

東福彭叔守仙拜書于栗棘東白軒下」。「猶」(上)

八月一日、東福寺第十二住。「彭叔和尚法語」

十月四日、能登定林寺ノ鶴天崇翰寂ス、翌年春ニ漸ク訃音到ル。(↓

天文十二年十一月・同十五年六月条・同十九年五月条)「下火拈香」

「鉄」(下)

十一月二十五日、近江田上ニ避難スルニアタリ、書尾ニ詩ヲ題シテ羽

田ノ筠甫ニ寄ス。「猶」(上)

十一月二十八日、東福寺退院。「猶」(中)

十二月二十三日、コノ月上瀨、龍吟庵照春龍喜ヨリ明年春近江ヲ訪フ

旨手簡アリ、コノ日、返信シテ來駕ヲ期ス詩ヲ贈ル。「猶」(上)

十二月十四日、近江田上法泉庵ニ於テ、コノ月五日ヨリ「增禅林集句

韻」ノ東韻四十紙ヲ輯書シ、コノ日、「跋增禅林集句韻東韻尾」ヲ付

ス。「予之所輯增集句韻、欲改書者、星霜深矣、是歲天西書雲、脱恵

日鉄柳之翌日、二十九、俄寓江東田上法泉庵、(略)東之一韻、四十紙、

始于臘之單五、終於臘之十四、吁、予齡漸將過華甲子、則畢其功乎入

声之末」ノ記事アリ。(↓天文十一年九月条)「猶」(中)

コノ年、天庵梁桂首座ノタメニ、住越中崇聖寺山門疏ヲ製ス。「猶」

(下)「鹿苑院公文帳」

(未了)